

# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/017886

International filing date: 01 December 2004 (01.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2004-222090  
Filing date: 29 July 2004 (29.07.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 04 February 2005 (04.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

02.12.2004

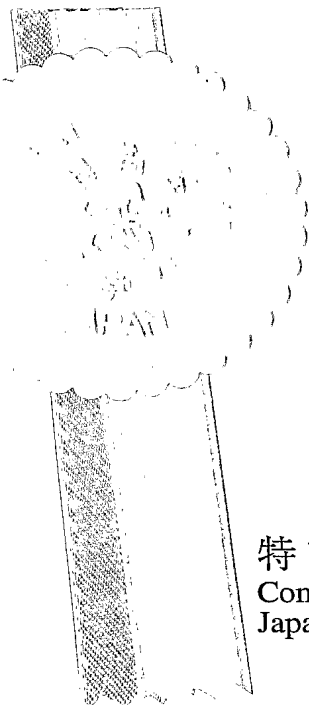
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日            2 0 0 4 年   7 月 2 9 日  
Date of Application:

出 願 番 号            特 願 2 0 0 4 - 2 2 2 0 9 0  
Application Number:  
[ST. 10/C]:            [ J P 2 0 0 4 - 2 2 2 0 9 0 ]

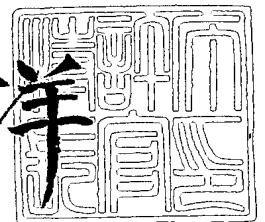
出   願   人            扶 桑 薬 品 工 業 株 式 有 限 公 司  
Applicant(s):           岡 久   稔 也



特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

2 0 0 5 年   1 月 2 1 日

小 川 洋



出証番号   出証特 2 0 0 4 - 3 1 2 3 3 2 5

【書類名】 特許願  
【整理番号】 195221  
【提出日】 平成16年 7月29日  
【あて先】 特許庁長官殿  
【国際特許分類】 A61J 1/00  
【発明者】  
    【住所又は居所】 徳島県徳島市北田宮 2 - 1 - 5 1  
    【氏名】 岡久 稔也  
【特許出願人】  
    【識別番号】 000238201  
    【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区道修町 1 丁目 7 番 1 0 号  
    【氏名又は名称】 扶桑薬品工業株式会社  
【特許出願人】  
    【識別番号】 503443094  
    【住所又は居所】 徳島県徳島市北田宮 2 - 1 - 5 1  
    【氏名又は名称】 岡久 稔也  
【代理人】  
    【識別番号】 100084146  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 山崎 宏  
    【電話番号】 06-6949-1261  
    【ファクシミリ番号】 06-6949-0361  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100100170  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 前田 厚司  
    【電話番号】 06-6949-1261  
    【ファクシミリ番号】 06-6949-0361  
【選任した代理人】  
    【識別番号】 100122943  
    【弁理士】  
    【氏名又は名称】 岡崎 博之  
    【電話番号】 06-6949-1261  
    【ファクシミリ番号】 06-6949-0361  
    【連絡先】 担当  
【手数料の表示】  
    【予納台帳番号】 204815  
    【納付金額】 16,000円  
【提出物件の目録】  
    【物件名】 特許請求の範囲 1  
    【物件名】 明細書 1  
    【物件名】 図面 1  
    【物件名】 要約書 1

**【書類名】 特許請求の範囲****【請求項 1】**

弱シール部で区画された複数の薬剤充填室を備える容器本体と、該容器本体の開口部に取り付けられた口栓とを備えた複室容器において、

前記複数の薬剤充填室のいずれかの外表面に貼着され、前記弱シール部の剥離による薬剤の混合等に関する情報を確認することができる情報確認シールと、

該情報確認シールと前記口栓の薬剤排出口を覆った状態で貼着され、前記弱シール部が剥離していないことを表示する警告シールとを備えることを特徴とする、複室容器。

【書類名】明細書

【発明の名称】複室容器

【技術分野】

【0001】

本発明は、弱シール部の剥離を確認するシールを備えた複室容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、2種類以上の薬剤を配合する場合、薬剤の相互作用に起因する経時的変化によって薬剤が変質する危険性があるため、弱シール部で区画された複数の薬剤充填室を備える複室容器を用いて、各未混合薬剤が個別に充填されていることがある。このような複室容器を用いた場合には、通常、弱シール部を剥離しないでも未混合薬剤を患者に投与することができるので、かかる未混合薬剤の誤投与による医療事故がないように使用者に注意を喚起するため、複室容器には、フック用の吊下穴を塞ぐように開封確認用シールを貼着し、弱シール部の剥離の確認を促すように構成されたものがある（例えば、特許文献1参照。）。

【特許文献1】実用新案登録第3074885号

【0003】

しかしながら、このような複室容器では、フックに吊り下げて使用する場合には、使用者に注意を喚起させることができるが、フックを用いずに傾斜面に設置して患者に薬剤を投与しようとする場合には、フック用の吊下穴に使用者の注意が向かない傾向があり、使用者に十分に注意を喚起することができないという問題点がある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

したがって、本発明は、かかる問題点を解消するため、フックに吊り下げて使用する場合のみならず、傾斜面に複室容器を設置する場合にも、弱シール部の剥離の確認を促すように構成された複室容器を提供し、未混合薬剤の誤投与による医療事故の発生を防止することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

前記課題を解決するための手段として、本発明は、弱シール部で区画された複数の薬剤充填室を備える容器本体と、該容器本体の開口部に取り付けられた口栓とを備えた複室容器において、前記複数の薬剤充填室のいずれかの外表面に貼着され、前記弱シール部の剥離による薬剤の混合等に関する情報を確認することができる情報確認シールと、該情報確認シールと前記口栓の薬剤排出口を覆った状態で貼着され、前記弱シール部が剥離していないことを表示する警告シールとを備えたものである。

【発明の効果】

【0006】

前記手段によれば、使用者は、警告シールの剥離及び情報確認シールへの記入という2つの作業を行う度に、その都度、弱シール部の剥離の有無を確認することができる。また、弱シール部の剥離前に中空針の刺通がないように口栓が警告シールで覆われているため、フックに吊り下げる場合のみならず、傾斜面に設置した場合でも、未混合薬剤の誤投与による医療事故を十分に防止して、患者に対する安全性を確保することが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

以下、添付の図面に従って、本発明の実施形態を説明する。

【0008】

図1は、本発明の実施形態に係る複室容器1を示す。この複室容器1は、図5に示したように、容器本体2と、該容器本体2の開口部に取り付けられた薬剤排出用の口栓10とを備える。

**【0009】**

容器本体 2 は、2 枚の透明なフィルムシートからなり、周辺強シール部 3 を備える。周辺強シール部 3 は、前記 2 枚の透明なフィルムシートを対向させた内表面の間に、口栓 10 の薬剤排出管 12 を挟持させた状態で、周辺部が加熱溶着されて形成されている。周辺強シール部 3 は、後述の第 1 と第 2 の薬剤充填室 5、6 の外表面を押圧しても剥離することができない強度で構成されている。

**【0010】**

容器本体 2 は、弱シール部 4 と、第 1 と第 2 の薬剤充填室 5、6 とを備える。弱シール部 4 は、一方の内表面とこれに対向する他方の内表面とを、例えば、混合樹脂片で接合し、又は前記内表面の間に混合樹脂片を挟持した状態で加熱溶着することによって、容器本体 2 の中央付近の短手方向に形成されている。弱シール部 4 は、容器本体 2 の内部を第 1 と第 2 の薬剤充填室 5、6 に区画している。弱シール部 4 は、第 1 と第 2 の薬剤充填室 5、6 の外表面を押圧すると剥離することが可能な強度で構成されている。

**【0011】**

口栓 10 は、筒状で、ゴム栓で密封された薬剤排出口 11 と、薬剤排出管 12 とで構成されている。

**【0012】**

複室容器 1 は、情報確認シール 20 を備える。情報確認シール 20 は、図 5 に示したように、矩形状に構成され、裏面全体に粘着剤を塗布して、一方の薬剤充填室 5 の外表面に貼着されている。情報確認シール 20 は、表面上部に設けられた表示部 21 と、該表示部 21 の下方に設けられた記入欄 22 とを有する。表示部 21 には、図 5 に示したように、弱シール部 4 が剥離したことを表示する「開通済」の文字が緑地に白色で付されている。記入欄 22 には、図 5 に示したように、弱シール部 4 の剥離による薬剤の混合等に関する情報を記載する「混合者サイン」欄、「混合の年月日」欄、「混合時刻」欄、及び「患者氏名」欄が設けられている。

**【0013】**

複室容器 1 は、さらに、警告シール 30 を備える。警告シール 30 は、図 1～図 3 に示したように、前記情報記入シール 20 より大きな矩形状に構成され、裏面の上下両端に粘着剤を塗布して、情報確認シール 20 と前記口栓 10 の上部を覆った状態で一方の薬剤充填室 5 の外表面及び口栓 10 に貼着されている。警告シール 30 の表面には、弱シール部 4 が剥離していないことを表示する「未開通」の文字や、弱シール部 4 の剥離後に剥離すべき旨を記載した注意書が赤地に白色で付されている。

**【0014】**

次に、前記構成からなる複室容器 1 を使用する場合の作用について説明する。

**【0015】**

警告シール 30 が貼着された状態で、本発明の複室容器 1 がフックに吊り下げられたり、傾斜面に設置されたりしている場合には、口栓 10 の薬剤排出口 11 を覆う警告シール 30 と、そこに付された「未開通」の文字や注意書によって、使用者は、口栓 10 のゴム栓に中空針を刺通すべできないことや、弱シール部 4 の剥離作業を行うべきことを容易に認識することができる。これにより、使用者は、口栓 10 のゴム栓に中空針を刺通して、未混合薬剤を患者に投与することはない。

**【0016】**

使用者が第 1 と第 2 の薬剤充填室 5、6 のいずれかの外表面を手等で押圧して弱シール部 4 を剥離した場合には、使用者は、弱シール部 4 の剥離を確認することも含めて、図 4 に示したように、警告シール 30 を剥離し、「開通済」の文字が付された情報確認シール 20 を露出させる。さらに、使用者は、弱シール部 4 が剥離したことを再度確認するため、記入欄 22 に薬剤の混合等に関する必要な事項を記入する。

**【0017】**

仮に使用者が弱シール部 4 を剥離することを怠ったまま警告シール 30 を誤って剥離した場合であっても、情報確認シール 20 の記入欄 22 に記入すべき事項は、薬剤の混合等

に関する必要な事項であるため、使用者は、弱シール部 4 の剥離作業が行われていないことを容易に認識することができ、口栓 1 0 のゴム栓に中空針を刺通して、未混合薬剤を患者に投与することはない。

【図面の簡単な説明】

【0 0 1 8】

【図 1】 本発明の実施形態に係る複室容器の正面図である。

【図 2】 警告シールを貼着した部分を拡大した図 1 の複室容器の側面図である。

【図 3】 図 1 の複室容器の底面図である。

【図 4】 警告シールを剥離しようとする状態の図 1 の複室容器の正面図である。

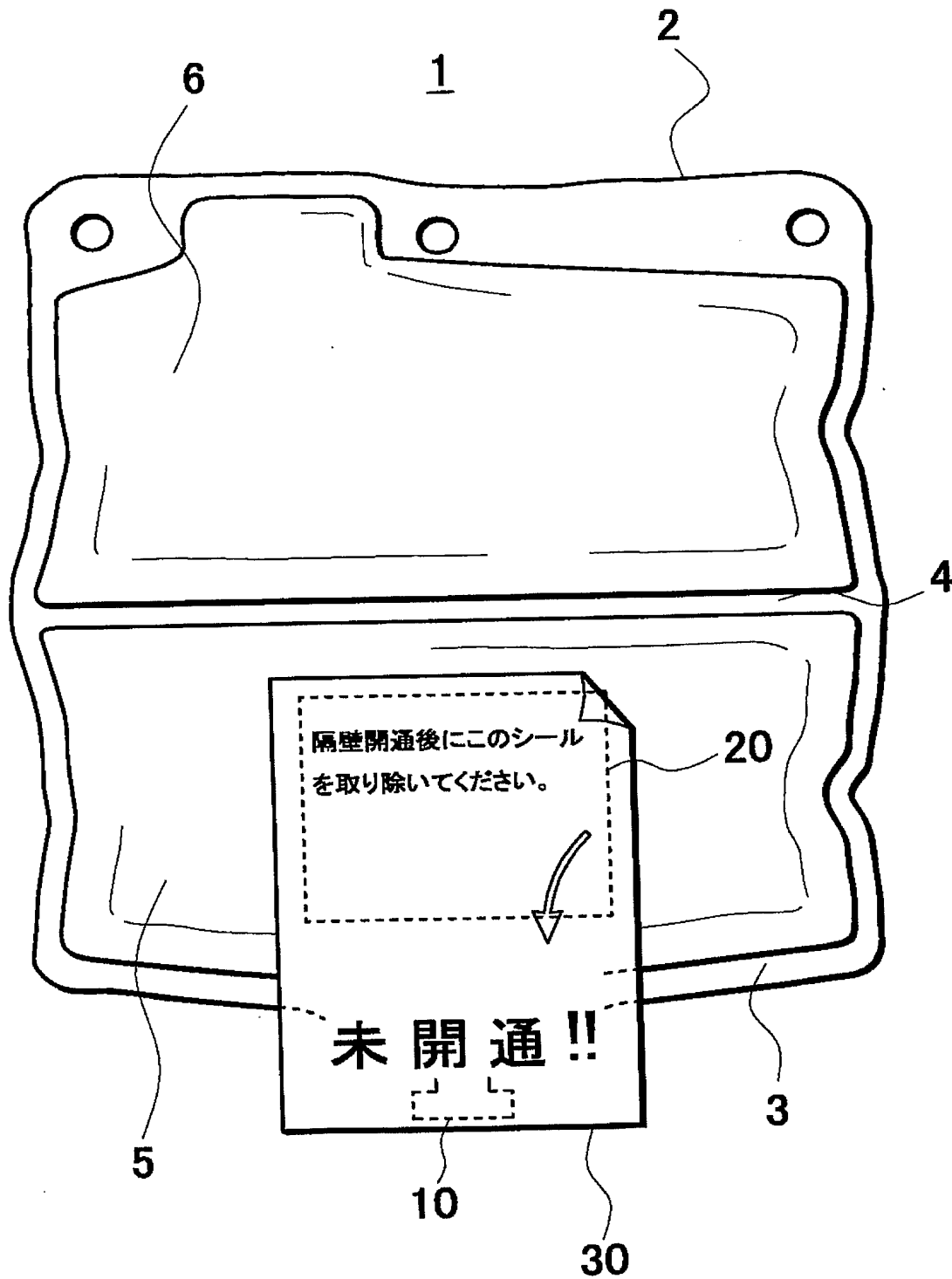
【図 5】 警告シールを剥離した状態の図 1 の複室容器の正面図である。

【符号の説明】

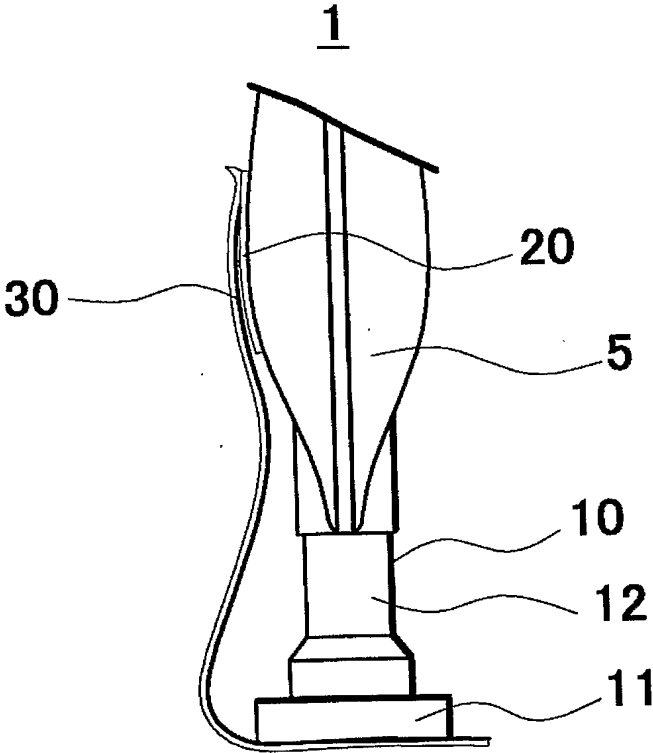
【0 0 1 9】

- 1 複室容器
- 2 容器本体
- 3 周辺強シール部
- 4 弱シール部
- 5 第 1 の薬剤充填室
- 6 第 2 の薬剤充填室
- 1 0 口栓
- 1 1 薬剤排出口
- 1 2 薬剤排出管
- 2 0 情報確認シール
- 2 1 表示部
- 2 2 記入欄
- 3 0 警告シール

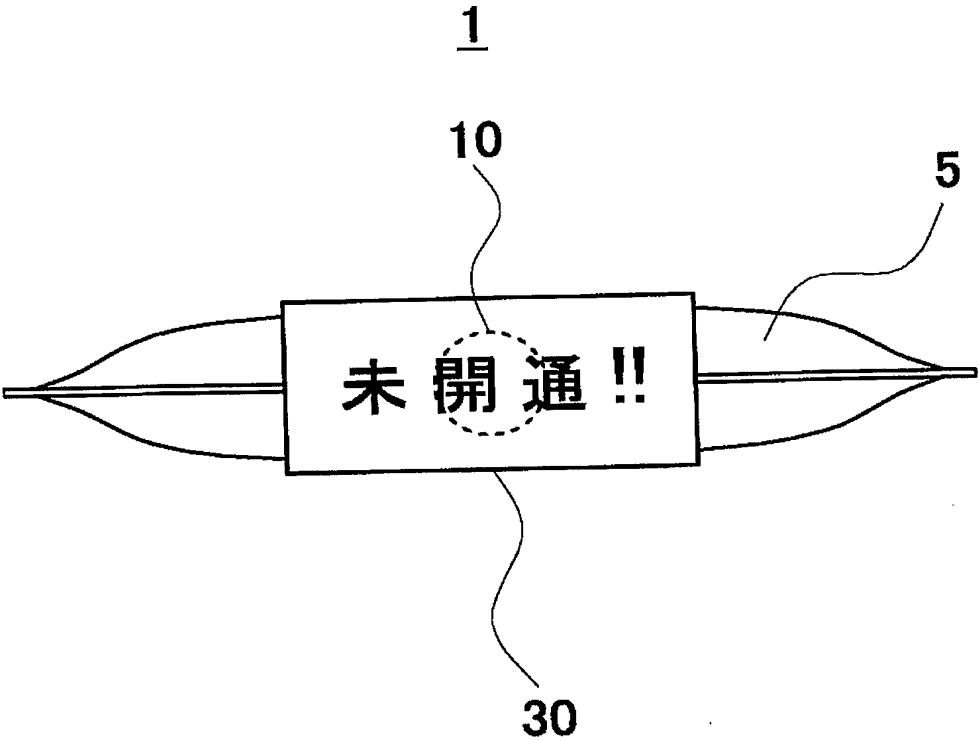
【書類名】 図面  
【図 1】



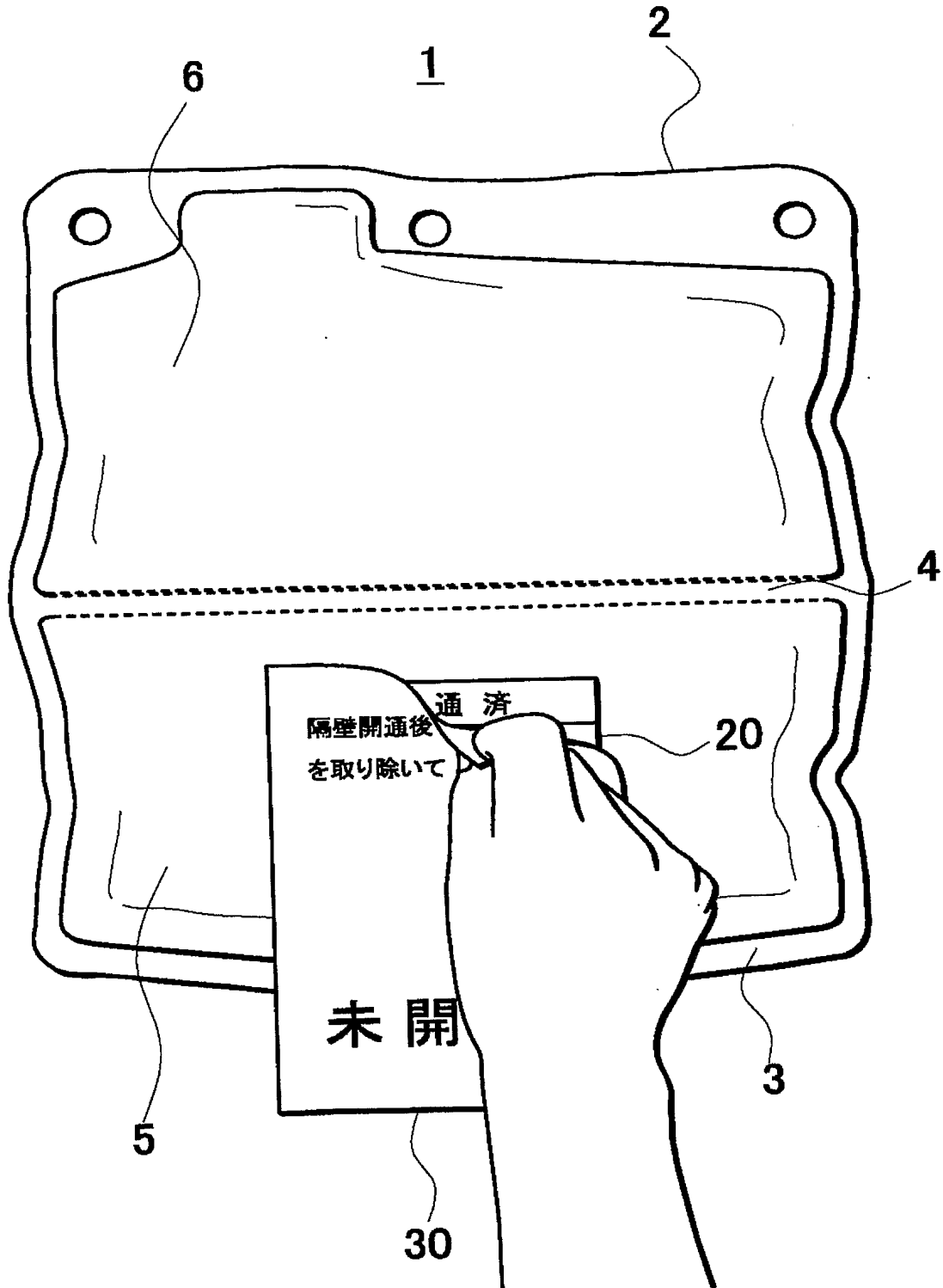
【図 2】



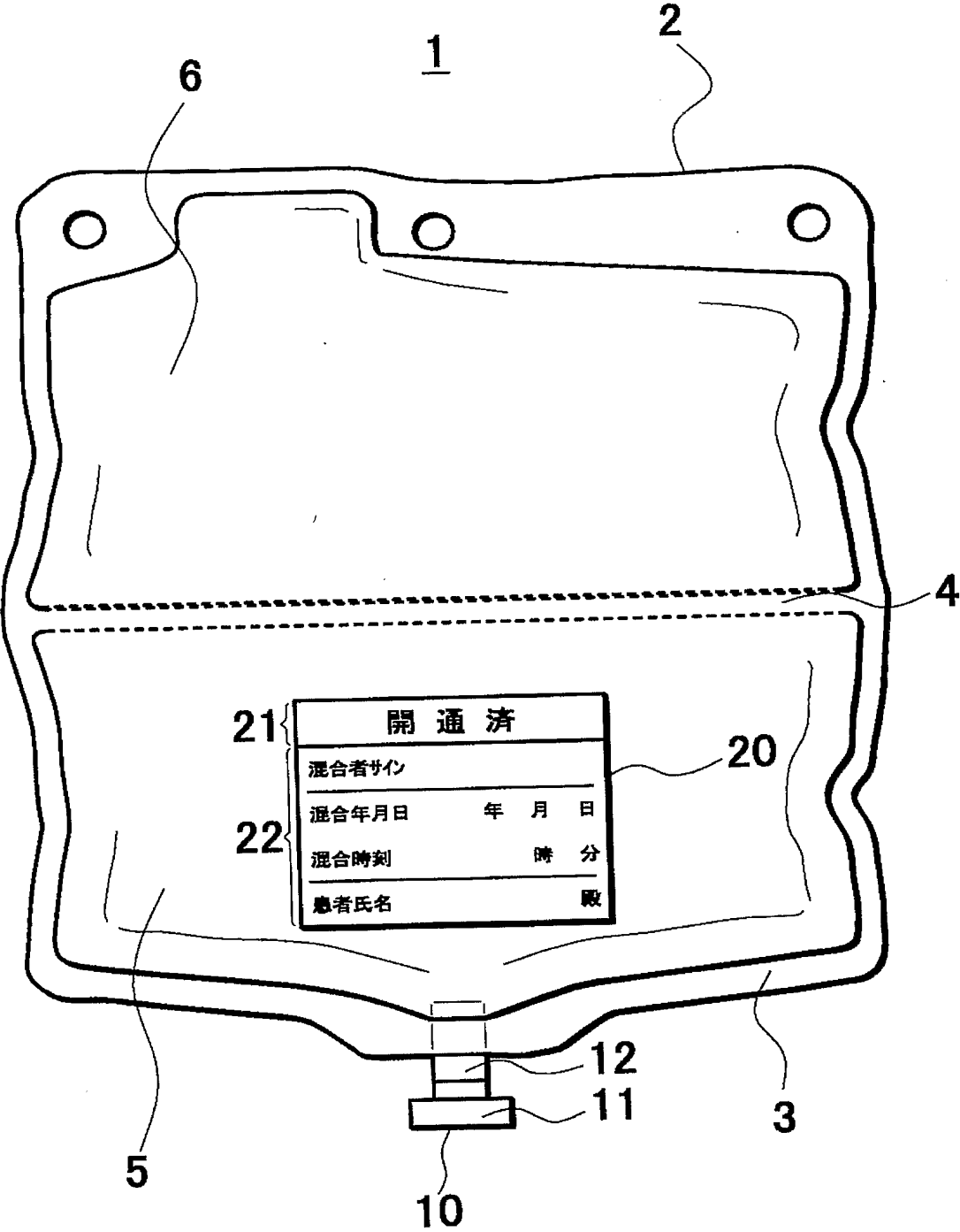
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 フックに吊り下げて使用する場合のみならず、傾斜面に複室容器を設置する場合にも、弱シール部の剥離の確認を促すように構成された複室容器を提供する。

【解決手段】 弱シール部 4 で区画された複数の薬剤充填室 5, 6 を備える容器本体 2 と、該容器本体 2 の開口部に取り付けられた口栓 1 0 とを備えた複室容器 1 において、前記複数の薬剤充填室 5, 6 のいずれかの外表面に貼着され、前記弱シール部 4 の剥離による薬剤の混合等に関する情報を確認することができる情報確認シール 2 0 と、該情報確認シール 2 0 と前記口栓 1 0 の薬剤排出口 1 1 を覆った状態で貼着され、前記弱シール部 4 が剥離していないことを表示する警告シール 3 0 とを備える。

【選択図】 図 1

特願 2004-222090

出願人履歴情報

識別番号

[000238201]

1. 変更年月日

1990年 8月 8日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府大阪市中央区道修町1丁目7番10号

氏 名

扶桑薬品工業株式会社

特願 2 0 0 4 - 2 2 2 0 9 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 5 0 3 4 4 3 0 9 4 ]

1. 変更年月日

2 0 0 3 年 1 2 月 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

徳島県徳島市北田宮 2 - 1 - 5 1

氏 名

岡久 稔也